

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>家庭的で安心な環境のもとで誇りを持ってその人らしい人生を送れるよう支援し、地域の人々との交流を大切にし、地域住民の心のよりどころとなるグループホームづくりを理念の柱にした。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日の朝のミーティング後にホームの基本理念を職員全員で復唱し、毎日の利用者への関わりを振り返り理念に反した行為がなかったか一人ひとりが自分に問いかけてゆき理念が具体化していくように取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には広報を発行し、面会時、行事参加時につねに分かりやすく理念を伝える努力をしている。また、地域に向けては地域用の広報の発行を行い、また施設のお祭り等に参加を呼びかけ、理念、役割を説明し伝えるよう努めている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物等のとき近所の人と積極的に職員が声かけし、交流が行われており、近所のお年寄りが気軽に面会に来られるよう働きかけている。近くの商店、理髪店、美容院等を入居者、職員が常に利用して顔見知りの関係になっており、近所の人々が気軽に立ち寄れる環境ができています。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の行事(お祭り、もちつき大会等)への参加、町内会の一斉清掃等への参加は必ず行っている。また近所の保育園、婦人会等に行事のボランティアに訪問してもらい地域との交流に努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護の専門学校生、高校生等の実習の受け入れを積極的に行って人材の育成に努め、地域の高齢者のケアサービスの推進に還元できるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいを理解、活用する為、全職員が自己評価を行い、その結果の課題の改善会議を開き、検討し、実践している。また、外部評価の検討も全員で行い、サービスの質の向上につなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員、町内会代表、ご家族、ご利用者他施設の職員等に参加を呼びかけ運営推進会議を開き、事業内容の報告、外部評価の結果、改善の取り組みを報告し、参加者からの広い視野からの意見を聞き、サービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活困難者等の支援の為、市町村と協議し、共に取り組み問題解決にあたっている。また市町村の包括支援センターの研修に積極的に参加し、サービスの向上に活かすよう努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度権利擁護の研修には積極的に管理者、職員が参加しており、施設内研修も行って職員全員に理解を深め、今後の制度利用を活用できるように努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の研修を施設内で行い、職員全員が認識を深めて虐待の危険を早期に見つけ、対応できるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族、利用者が十分重要事項の内容を理解できるよう時間をかけて説明している。(利用料、重度化の対応、取り組み等) 契約解除の際は十分時間をかけて話し合い納得してもらい計画、実行し、退所後の支援を十分に行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に苦情、意見を出せるよう職員が関わりの中で常に心がけており、ご意見箱、相談窓口を設け利用者の意見を伝えやすくしており、自分の意見を伝えられない利用者には常に関わり声かけし、思いを察する努力をしている。また、出された意見は全職員で検討し、ケアに反映するように努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況を定期的(毎日の利用料支払いで家族来訪時)または個々の家族の面会時に常にお声をかけ連絡ノートも利用して伝えている。緊急に健康状態に変化や問題が発生した場合は電話ですぐに家族に報告するシステムができています。職員の異動があった場合は掲示板にお知らせとしておのせている。金銭管理は金銭出納帳を作成し1ヶ月に一度ご家族に報告しサインをもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市町村の苦情相談窓口の存在を伝えて利用しやすい体制をとっている。ご意見箱、相談窓口を設けており家族面会時には積極的にお声をかけてご意見、ご要望をお聞きしている。また連絡ノートを活用して気軽にご意見を書いてもらえるよう努めている。出されたご意見苦情は職員全体で検討し、反省改善に努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に共に働いており職員全員のことを把握しており職員が気軽に施設の運営に対して意見を出し、それを職員全員で検討し、運営に反映させるような取り組みができています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の暮らしに沿った職員の勤務時間を作成しており利用者が自由に生活できるようニーズに合わせた対応が可能な勤務体制となっている。また、急に職員が休みのときは併設施設からなじみの職員の応援が得られる。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代はほとんど行われておらず常に顔なじみの職員がケアをしている。また、離職等でやむを得ない場合は引継ぎの期間をできるだけ長く取って行われるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職、パートにかかわらず新しく入った職員には新人教育を計画して行っている。また、施設内研修や地域の保健所や県立病院、包括支援センター等で行われる研修には積極的に多くの職員が受講できるようにしており、研修報告を行い、全員が知識を身につけられる工夫をしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所と交流し、研修会を頻回に行って意見交換し、刺激しあって質の向上に努めている。また近くのグループホームの職員との交流があり情報の交換を行っている。全国グループホーム協会に加入し、研修会や情報の入手、連携を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者が職員の悩みやストレスをよく聞き理解している。また職員相互での話し合い職員間の親睦など積極的に行っている。職員が交代で休息をとれる場所は確保されており冷暖房、寝具等も整っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は常に現場で働いており職員一人ひとりの勤務状態、健康状態、悩み等を把握して対応を行い、やりがい、向上心を持てるように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の相談時には本人に直接面会して本人の困っている事、不安、求めている事、健康状態等をよく聞き、状況を十分把握して理解し、受け止めるよう努め本人と施設、職員との信頼関係を築けるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期相談時には家族の話をよく聞き、家族の立場に立って理解し受け止め、一番の問題点は何か、どうすれば不安がなくなり生活できるか考え対応して信頼関係を築くよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人家族の両者が不安なく生活できる為の必要な支援は何かを面接を通してよく見極め、必要であれば関連施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者とも協議して方策を考えて対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が自宅を訪問して顔馴染みになり、また入居前の見学を家族と一緒にしてもらい他の入居者、職員とお茶を飲んだり、ゲームに参加して施設に馴染みを持って安心して入居できるよう努めている。入居後は家族、知人の面会を働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者、職員は共に支えあい生活している家族だという意識を常に持ち入居者一人ひとりの能力、個性を活かし活用してお互い助け合い、また職員も毎日の生活の中で昔の風習や生活の技を教えてもらい、学び、支えあう関係ができています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活歴や家族とのこれまでの関係を十分把握した上で家族の意見、悩みをよく聞き、また利用者の情報を細かく家族に伝え、思いを伝え、信頼関係を作り、助け合い一緒に支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の仲に距離ができないようこまめに利用者の日頃の情報を伝え面会、外出、外泊、行事への家族参加を勧めいき疎遠にならないよう努める。まただれにもまして利用者は家族をたよりに思い一緒に過ごす時間を楽しみにしていることを折に触れお話している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた行きつけの美容院に一人ひとりお連れするようにしており、お買い物は少し遠くても馴染みの店を利用して、馴染みの人との交流を行い今までの生活を維持できるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に関わり利用者同士の相性、関係等を十分把握して職員が一緒になってコミュニケーションを取り利用者同士の関係がうまくいくよう働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在まで退所者は医療機関入院の場合がほとんどで自宅復帰にむすびついていないが入院中の相談、お見舞い、お世話、情報提供はこまめに行い退居後も関係を大切にしよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に関わりコミュニケーションを取り、利用者のしたいこと関心事、好むもの等を把握するよう努めている。また、意思疎通が困難な方には家族からの情報や毎日の生活の中でのその人の出すシグナルを見逃さないよう努め、意向、希望にそった暮らしができるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人の生活歴や今までの家庭環境等をこまめに聞き取り全体像の把握につとめ面会時に家族、知人等に働きかけプライバシーに配慮しながら情報提供をお願いして本人の意向の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で一人ひとりをよく観察し、ゆっくりと本人のできることを声かけ見守りながら行ってもらい全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成の前には必ず本人家族と話し合いを持ち、希望、ニーズを細かく聞き取り、把握し、またスタッフの気づいた点や課題を反映させて一人ひとりにあった利用者本位の具体的な介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定された期間にとらわれず本人の状態の変化、ニーズの変化に合わせて本人と家族の意向を反映し、そのつどケアプランの見直しを行い、一人ひとりに合った計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細やかな事や変化、ケアの実践効果等を個別記録に記入して全員が把握して状態の変化や本人の希望に変化があった場合はそれを参考にして介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療対応可能な医療連携体制があり、重度化しても本人家族の意向を確認し、安心して馴染みの職員環境で生活を維持できるよう支援している。また、通院、送迎等は必要時、希望時はいつでも対応しており、個々の満足度を高める努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員、婦人会、保育園、消防等に働きかけボランティア参加や協働、意見交換等を行い協力して支援する体制ができています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前に担当していた地域のケアマネジャー等と入居後も折に触れ情報交換をして利用者の支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護を利用している入居者のため、地域包括支援センターと協働して支援を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの希望、心身の状態に合わせてそれぞれの医療機関に受診、通院介助を行い適切な医療を受けられるよう支援している。また希望により設置母体の医療機関が週2回往診を行い毎日の健康管理に細かく対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近くの総合病院の脳神経外科や地域の精神内科等に通院し、認知症に詳しい医師の指示や助言を受け治療を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が毎日健康管理、医療支援を適切に行っており、24時間同じ法人の老人保健施設の看護師と医療連携をとる体制が確保されている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	常時の医療機関との連携により情報の提供、早期の退院相談を行い退院支援につなげている。また、お見舞いや家族との交流で状況を把握し精神的支援を行い、ダメージを少なくして早期に退院できるよう支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の看取りの指針を定めており家族本人の意向の確認を行い、状況の変化に応じて治療方針を家族、医師、看護師等で何度も話し合い、本人家族が安心して納得して終末期を過ごせるように可能な限り支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の希望により住み慣れた所で安心して終末期を過ごしてもらえるよう医師、看護職員、医療機関等の連携を密にし、緊急に備え心おだやかに最期を迎えられるよう支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移行先へADL、生活状態、ケア等の情報提供書、医療機関への紹介状、看護サマリーを提供し、細かく情報を伝え移行先で安心して生活が継続できるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の行動をよく観察して排泄等の誘導は自然に目立たないように声かけして行っており言葉かけ呼び方には気をつけて尊厳を傷つけないよう職員全員が取り組んでいる。また個人情報保護の研修を行い職員の意識の向上をうながし、プライバシー保護の徹底に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりをよく観察し毎日の生活の中でその人の出すシグナルを注意深く受け止めて本人の希望や好みを把握して職員が押し付けることなく本人の意志が反映され決定されるよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに配慮し食事、入浴、起床時間等で入居者のペースを常に優先してその人らしく毎日の生活が送れるよう柔軟に職員が対応するように心がけている。また業務のスケジュールに関係なくその日その人のしたいことを把握して利用者に合わせた生活を支援するよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望により職員が付き添い一人ひとり行きつけの理美容院に行って好みの髪型になるよう支援しており毎日の朝の着替え、身だしなみ、本人の希望を聞き好みのおしゃれができるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の段階から入居者と相談して季節感や昔懐かしい好みの献立を取り入れ食事を楽しくするよう努めている。また買い物好きな人、後片付けの得意な人等できる事、得意な事を見極め、活かし、職員と協力して行ってもらい出来上がった食事は職員と一緒に会話しながら楽しく食事できるよう努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの好みを職員が把握しており一緒に好みのおやつや飲み物を買いにいき自由に楽しめるように支援している。	○ タバコは原則禁止となっているが現入所者で希望している人はいない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの状態にあったオムツ、パット等の種類を使い分け尿便のチェックを行って排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄の自立に向けて支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自宅と同じように入浴は一人ひとりゆったりとくつろいで入ってもらよう工夫しており希望する時間帯もできるだけ考慮している。また同性の職員が介助するようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりをよく観察し日中の生活の中で生活リズムを整える為、無理なく体を動かし心地よい疲れが保たれ精神も安定して安眠が得られるよう関わり努めている。また、寝付けないときは無理をせず職員とテレビを見たりお茶を飲む等して関わり、安心して安眠が訪れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望、残存能力を把握するように努め、それをできる役割(花の栽培、メダカの世話、草取り等)を見出し毎日の生活が充実でき、自信につながるよう支援している。また昔なじみの懐かしい歌(童謡から懐メロ)を音楽療法士の職員が指導し、歌い、癒しと刺激になっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により金銭の管理のできる方は多額な金額でなければ管理してもらっている。また、施設で管理している方には買い物時にはお預かりしたお金を渡し買い物の楽しみを味わってもらっている。また、定期的に預かり金の帳簿を家族に見てもらい了解を得ている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	計画を細かく立てるのではなく、その日その日の希望を把握して散歩、隣の施設への訪問、買い物、ドライブ、地域の行事への参加等積極的に外出できるよう支援している。	○	気候の悪い時季等はドライブの回数を増やす対策を行っているが十分ではなく昨年同様に課題としている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日々の会話の中で「懐かしい所」「行きたいと思っている所」等への小旅行を聞き出し、計画を立てて家族の協力を得てできるだけ実現させていけるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を利用してお部屋や希望の場所からいつでも電話できるように配慮しており、希望により職員が手紙の代筆をしたり、年賀状、書中見舞い状は毎年出せるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はなく、気軽にいつでも訪問できる雰囲気ができている。また、お茶を自由に飲んで団欒できるように設置しており、職員がお声をかけ対応してくつろげるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会を行い、職員の理解を深め身体拘束の弊害を認識し、廃止に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が経験や研修を通して鍵をかけることの弊害を理解しており鍵掛けは行っていない。常に見守り徘徊を止めるのではなく、一緒について行く等安全に配慮して自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者を意識しながら業務を行っており見守りながら主にリビングで記録等の業務を行っており、夜間帯には頻回に巡視を行い、休憩は入居者全員が把握できるリビングのソファで休み、安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、刃物、洗剤等の管理はマニュアル化されているが一人ひとりの状態を把握し職員間で検討し、生活する上での必需品を危険なくできるだけ使用できるよう支援している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと事故報告書を作成し、一人ひとりのリスクや危険を防ぐための方策を職員で検討し、また研修を行い再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	骨折、発作、誤嚥等の急変や事故発生時の緊急対応マニュアルを作成しており、それに従って訓練、研修を行い技術を身につけて、緊急時対応できるよう努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一年間に2回の昼間と夜間を想定した防火訓練、避難訓練を行っており、消防署との連携をとり、常に同一の法人、併設施設の職員等と共に災害時の対応の研修を行い、併設施設の職員の緊急連絡網の整備、協力をはかり災害時に助け合いを行える体制ができています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族とは常に話し合い、事故発生等のリスクの説明を行い、一人ひとりを常に見守りリスクを把握し、検討を行い可能な限り自由に散歩、お買い物に行ったり抑制のない生活ができるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に注意をして顔色や様子観察を行っており変化があれば直ぐにバイタルチェックを行い医師に連絡し、早急に対応する体制ができており、またその状況は個別に記録されて医療につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が主に薬の管理を行い医師の指示に従い服薬の支援をしているが他の職員も常に一人ひとりの病気を、薬の内容を把握しており薬に変更があった場合の副作用にも注意して観察している。また、服薬の間違いを防ぐため服薬チェック表を作成している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつに寒天、乳製品を多く取り入れ水分摂取も頻回に声かけし、多く摂るよう努めており散歩、体操等運動を心がけ自然排便を促すようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを習慣づけて全員が行えるよう根気よく働きかけて清潔に努めており、また歯磨き後のチェック、入れ歯のお手入れ、管理は職員が確実に行って肺炎予防に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎日の水分、食事摂取量のチェック表を作成し記録しており併設の施設の栄養士に定期的に献立、カロリー等のチェックを行ってもらい栄養のバランスが取れるよう努めている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成し、定期的に職員研修を行い、感染症流行時には全職員で予防、対策に努めている。入居者、職員のインフルエンザ予防接種、マスク、ペーパータオル等の予防対策を行っている。	○ 予防をし、早期発見に努め対策を行っている為大事に至ったことはないが2～3人の風邪の感染が年に1～2回ほどはあり、今後徹底して感染を防ぐため一層の予防に努めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、包丁、まな板等の消毒、冷蔵庫中の掃除、管理は定期的に行って清潔、衛生管理に努めている。また、食材は頻回に買い物に行き、なるべく買いだめはしないようにして安全に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に常にお花のプランターを多く置き、明るくするよう心がけ、中には必ず季節のお花を生け家庭的で親しみやすい雰囲気になるよう努めている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの物、お年寄りにとって馴染みの物、お花等で家庭的でほっと安らぐ環境づくりに努めており、また冬はこたつを置き三月のお雛かざり鍋料理、ゆず湯等で季節感を出し、五感に働きかけている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に昔懐かしい置物と椅子を置きたまたベランダに園芸コーナーを作り空間に長椅子を設置し、くつろいで過ごせるスペースを作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人家族と相談し、入居者が常日頃好んで使用している日用品や好みの物を持ち込み、自宅とギャップの少ない雰囲気を作り、不安感を解消し、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を設置し、入居者の状態をよく観察し、適温で気持ちよく過ごせるよう心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お年寄りに合わせできるかぎり自立して生活できるようトイレ、風呂場、流し台の高さ等の工夫はされている。一人ひとりをよく観察し、その人に合わせた道具の工夫もできるだけ行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人ひとりの状況をよく観察し、環境からおこる混乱、怯え等の原因を職員で検討し、取り除き安定した生活を送れる工夫をしている。またトイレお風呂等の既製のマークはやめて入居者が分かりやすいものにするよう努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに園芸コーナーを作り、お花、野菜を栽培し、お年寄りが水やり、草取り等をして外気を浴び、活動的な生活を送れるよう努めている。	○	空き地に畑を作る計画をしているがマンパワー不足の為、計画が進んでいないので今後の課題である。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

設置母体の医療機関との緊密な毎日の連携体制があり、緊急時の対応は24時間迅速に行える体制をとっており、安心して施設生活を送れるよう支援を行っている。